

岐阜県農政部施設等評価に関する検討会 議事要旨

1 日時

平成30年9月13日（木） 10:00～11:30

2 場所

OKBふれあい会館 6-4会議室

3 議題

(1) 平成30年度農政部施設等評価に関する検討会に諮る事業効果地区について

(評価対象事業)

農山漁村活性化プロジェクト支援交付金（4地区）

鳥獣被害防止総合対策交付金（10地区）

4 議事要旨

○農山漁村活性化プロジェクト支援交付金に係るA判定地区について

農村振興課長から、資料に基づき概要を説明

■飛騨市の定住人口については、減少は止まらないといった状況でしょうか。

・全体として減少傾向にあるのが現状です。市の方では施設整備や主に観光面で交流人口増に向けた施策を展開しているが、下げ止まるには至っていないということです。

■「農山漁村活性化プロジェクト支援交付金」事業による「農業用排水施設」「特用林産物生産施設」「総合鳥獣被害防止施設」に対して、「定住人口の減少率の抑制」が成果指標として取り上げているがこうした施設の整備と成果指標が結び付いていないように思いますが、成果指標について詳しく教えてください。

・目標の立て方ですが、この事業には元々複数の指標がありました。平成20～24年度その間の施策として、農業の施設もあり、その他施設もあり、鳥獣害の防止柵もある中で、シイタケの販売量などの指標もありましたが、それは平成25年度評価時に達成できたということです。総合的な施策の中で、定住人口の目標は可能な限り入れよということで、目標に入っています。

・市町村が活性化計画を作成する際に、国の方に、最終的に提出するのですが、この文言がないと、計画をつくっても認められないといった事情があります。飛騨市の場合、定住人口の減少率の抑制という目標を入れて、事業を進めさせて頂いたということです。

■この指標(定住人口減少の抑制)だけじゃなくて、先ほど話にあった様に、シイタケの販売量の指標などもあったということですか。

・そうです。そういった指標は既に達成した結果、人口に関する指標が残ったということで、改善計画をたてています。

○農山漁村振興プロジェクト交付金に係るC判定地区について

農村振興課農村支援係担当係長から、資料に基づき概要を説明

- 販売量もあると思うが、どういう等級で売るのが重要だと思います。白川茶については、現在どのような評価をもらっているのでしょうか。それによって値段が変わってくると思います。
 - ・平均単価については、ここ数年の推移を見ますと、少しずつ下がってきているというのが現状です。生葉でとったものをそれぞれの組合に茶工場があってそこで乾燥させてお茶にしていきます。そこから大部分が農協、全農の販売になりますが、茶商という卸の人たちが買付ということになります。白川茶というブランドもありますので、大幅な右肩下がりということではないですが、やはり少しずつ下がっております。
近年、急須で入れるお茶をあまり買わずに、ペットボトルやパックのようなお茶を買うことが増えております。高級茶として袋のお茶については、その需要が減少傾向にあると言えます。結論として品質は悪くないですが、量が減っているということです。
- 用意頂いたお茶を見てみると、販売者が株式会社●●●●●となっていますが、これは町がつくったものですか。
 - ・昔からある茶商でして、お茶を取り扱っている業者です。いくつかある茶商の中のひとつということになります。
- 販売が増えれば、生産が増えてくるものと思います。今までは、茶園に投資をするとか、生産をする方向への支援だったと思います。白川町がつくった商品の販売力を高めるといった支援の在り方が重要だと思います。
 - ・現場の方で、お茶の振興方策を役場の方とかと話をさせて頂く中で、緑茶の販売も当然やっていきますが、最近傾向として紅茶とか抹茶とかそういうニーズもあり、そちらの販売にも力を入れていって少しでもニーズにあったものをつくろうという努力をしています。しかし絶対量としての割合は小さいため、緑茶の販売については現在右肩上がりになる要素が無く、具体的に販売を強力に進めるところまでは至っていないというのが現状です。今後の大きな課題になるかと思っています。
- お茶を自宅に入れるということは、最近やってないなというのを思いました。抹茶はスイーツとかで、いろんなところで口にはしますが、国産抹茶は依然需要が高いと思います。消費者はやはり安心が欲しい中で、一つの材料になるのでは。
緑茶を高級品の緑茶として出しても、お金はそこまで出せるわけではないので、それ以外のところで、特色をだしていかないと難しいのではないのでしょうか。2つの白川町の事業で同じようなことをやっているようですが、販売の方が出来ていないと数値が出てこないのではと思います。
緑茶には細菌が少ないというのを聞いて、子供には緑茶を持たせるようにしているが、そういった健康志向をくすぐる形でPRできると良いと思います。
- 用意頂いたペットボトルのお茶(白川茶)はいくらでしょうか。(→150円くらい。)
有名メーカーと飲み比べてみても、おいしいと思います。茶葉の香りがしっかりあるし、渋みもある。もし茶葉の種類なんか分れば、それを書くことで、こだわりを見せられるのではないのでしょうか。ブレンドにしない方が、PR力が強いと思います。
緑茶にはビタミンCが豊富に含まれ、野菜よりも効率よくとれますが、そちら健康面の

方面から消費者にアクセスして、そこから茶葉の香りといった強みを生かしていくと良いのではないのでしょうか。

- ・昔からやっているお茶屋さんなので、独自のブレンド、製法で香りのよいお茶をつくっていると思います。ただ、やはり町が音頭を取ることで、積極的に情報発信していかないといけないと考えているところです。

○鳥獣被害防止総合対策交付金に係るA判定地区について

鳥獣害対策室鳥獣害対策係長から概要を説明

- 被害金額と被害面積の評価がバラつくのはどういった理由によるもののでしょうか。
- ・被害金額については、いろいろ捉え方もあるのですが、農家へのアンケートですとか、あるいは自治会長への聞き取りとか、捉え方が異なるため、ばらつきがあるものと考えています。また、被害面積が大きくて、被害金額が少ないというのは恐らく、作物により、小面積で、高単価の施設野菜などの場合には、面積が小さくても被害金額は大きくなりますし、それ以外のものは小さくなります。

○鳥獣被害防止総合対策交付金に係るC判定地区について

鳥獣害対策室鳥獣害対策係長から、概要を説明

- 他の事業と違い、鳥獣害対策では事業の中身についてはあまり選択肢がなく、やることは同じだという認識ですが、A判定をもらった地区とC判定をもらった地区で、何か差があれば教えてください。
- もうひとつ、集落内の合意を得られにくいということですが、集落の方から見たとき、面倒なことというのはあるのでしょうか。
- ・まずA地区とC地区の差ですが、これは本事業で整備した分に限って、一覧表に載せさせていただいており、それ以前にかなりの距離で侵入防止柵を張っているところが、被害額が減っているということで、A判定となっていると考えております。なので、トータルした距離というのは、こちらで整理しておらず申し訳ないですが、トータルした距離が長いところは被害が軽減されているということはあります。
- 集落の合意が得られないのは、侵入防止柵の整備の事業については、資材購入費は、全額補助ということになっておりますが、これを組立てるのは、自ら集落の人たちに出していただく、こととなります。勿論企業に委託することも可能ですが、その場合は補助率が1/2となります。そういった事情もありますし、また集落の中でも、自分たちの農地を守っていかないといけないということで、一生懸命な方がいる一方で、やはり高齢の方に多いかもしれませんけども、「もういいや」ということで、少し諦めているような方もいるというように聞いています。そういうところの意識の差が出ているなかで、柵を設置するだけでなく、そのあと管理も集落に求められることとなりますので、なかなかまとめきれないという場合があります。
- 設置していないところに動物が動いているということですが、狭い地域でAですよCですよということではなくて、岐阜県全体として、動物を計画的に追い込んでいくというような、広い戦略が必要だと思います。小さい地域では根本的解決にならないのではないかと。そのような構想はお有りでしょうか。

- ・今、集落単位で柵を整備していますが、やはり集落と集落の切れ目から侵入してくるというのはあります。農政サイドとしましては、まずは農村を対象に、できるだけ広いエリアを対象に、総合的な柵の整備を進めていきたいという考えはあります。農政サイドとしてはまず里に降りてこないようにというのがありますし、山の方の被害がというのがありますので、その辺り考慮しながら事業を進めていきたいと考えております。

また、有害鳥獣の生息数が推測の上では増えている中で、柵の整備と併せて、捕獲も進めております。特にシカにつきましては、ある一定数を保護しなければいけないという様になっておりますので、その範囲で捕獲をしておりますが、それを上回る繁殖率があると思われれます。環境サイドが生息数の調査を5年に一回ぐらい実施していますが、それを見て、適切な捕獲数というのを見極めていきたいと考えております。また、捕獲に関しまして、今までは、主に猟友会などをお願いしている状況です。捕獲の担い手ですが、やはり高齢の方も多いので、柵の整備とともに、集落の方がワナの免許をとって、自ら捕獲をしてもらうということも併せて協議会の方で進めております。

- ・岐阜県の方では、鳥獣被害対策・ジビエ長期戦略を定めておまして、集落ぐるみで取り組んでいただかなければならないことについて、各集落が、柵の設置に取り組んでいるとか、捕獲に取り組んでいるとか色々レベルつけて、より高いレベルに仕上げたいという目標をたてていますし、捕獲についても、環境も考慮しながら、何頭とるとか言った目標数値を設定して取り組んでいますし、獲ったものを今度、ジビエとして有効利用するといったところで、総合的な取組を進めています。

■先ほど、アンケートの方法によって評価が変わるといった話がありましたが、国の方で、統一した調査方法を定めていたりはしないでしょうか。

- ・ある程度は考え方というのがありますが、それを把握する手段が全戸、直接本人に聞く形なのか、集落の代表が聞き取りするのかで、確認のしかたによって内容に差が出てくるということです。
- ・それまで、あまり大きな問題でなかった鳥獣被害が大問題となった頃ですが、各市町村も以前はしっかりとした統計をとっていませんでした。県の方も全庁として取組を始めたときに、まずは被害を把握しないといけないということで、まず市町村への聞き取りから始まっています。それが近年になって、各市町村が被害をきちんと把握できてくるようになった、というのが実態かと思っています。

■先ほど A 地区と B 地区の違いという話がありましたが、例えば捕獲数によって違いが出ているというようなデータはあるのでしょうか。柵と捕獲頭数や、捕獲するための猟師担い手数などのデータを総合的に見比べないと、その地域に効果があったか正しく分析できないのではないかと思います。

- ・そこまで分析したものはありませんが、先ほど課長から説明のあった集落ごとで、それぞれの対策の進捗というものをレベル化して、捉えて管理はしています。その中では、柵を整備、捕獲の有無など管理している中では、総合的に取組をしているところは効果が挙がってくるという形になっていきますので、勿論捕獲もやっているところは、評価が高いというのはあると思います。

■柵と捕獲は両輪ということでしょうか。

- ・その通りと考えています。

■捕獲した数というのは、県の方で把握しているのでしょうか。

- ・環境サイドの方ですが、狩猟をする度に報告することになっています。シカについては環境サイドの個体数調査の結果を見て、適切な捕獲数を改めて把握したいと考えております。